



あさひりんごの郷協議会 発行責任者 会長 鈴木 浩幸 E-mail: asahiringonosato@gmail.com  
事務局 朝日町農林振興課内 〒990-1442 山形県朝日町大字宮宿1115 TEL (0237) 67-2114 FAX (0237) 67-2117



朝日町立宮宿小学校  
校長 秋場 一憲氏

●自己紹介

出身地 西村山郡河北町 57歳  
趣味 アプリ「あるくと」を活用したウォーキング(主に山形市内)  
座右の銘 「教育は人なり」「静思」

●応援メッセージ

約15年前、当時の上司から「幻のりんご」または「パインアップル」と呼ばれる高価で貴重なりんごを紹介いただきました。そのりんごは透き通るような黄金色で一切れいただくと、芳醇な香りが広がり、たった一口でファンになりました。それ以来、秋を迎える度に月に1から2回程度、足繁く「りんごの森」に通い続け購入を試みましたが、叶いませんでした。

令和3年4月、新採校長として朝日町立宮宿小学校に赴任しました。新任式で「誰か、幻のりんごを知りませんか。」と子どもたちに尋ねたところ、数日後に1年生女兒から手紙を受け取りました。「こうちょうせんせいへ それは、こうとくといひます。りんごのりにいくと、かえます。」何と素敵な子どもたちでしょう。そんな子どもたちを育んだ保護者やご家族、地域の方々、そして朝日町の魅力をよく知り味わいたい、子どもたちとの関わりを大切に開かれた学校にしたいと強く思い、今に至っています。

子どもたちの思いやりの心が詰まった「こうとく」を今では毎年味わい、「りんご観光大使」にでもなったかのように、魅力を多くの人々に伝えています。最近、様々な品種の食べ比べを家族で楽しみ、「はるか」や「ぐんま名月」のファンになりました。私の「朝日町愛」と「朝日町産りんご愛」は、これからも続きます。

情報募集コーナー

農業研修生が就農する際に課題となるのが、作業小屋や農機具等の取得です。このため、りんご栽培に必要な以下の農機具等の空き情報がありましたらお知らせください。

- ・募集対象 作業小屋、スピードスプレヤー、乗用草刈機等で利用可能なもの
- ・募集期間 随時
- ・条件等 賃借や売買は当事者間で行っていただきます
- ・連絡先 あさひりんごの郷協議会(町農林振興課内) TEL67-2114

今後の主なスケジュール(予定)

- 令和6年
- 1月中旬 あさひりんごの郷便り1月号発行
- 1月中・下旬 三部会合同会議、里親農家連絡会研修会
- 2月中旬 あさひりんごの郷便り2月号発行
- 4月1日 地域おこし協力隊 任用開始

産業まつりに「農業相談コーナー」を設置

11月18日、19日の両日、朝日町産業まつりが開催され、大勢の来場者が会場を埋め尽くしました。りんご品評会、りんご釣り、もちまき等数多くのイベントや販売コーナーでは長蛇の列が見られました。そうした中、当協議会では連携機関の皆様からのご協力のもと「農業相談コーナー」を設けて、来場者からの質問等に対応いたしました。はじめての企画でありましたが、シャインマスカットの導入に関するアドバイスを求められたり、米の特別栽培米についての問い合わせなどについて、専門的なアドバイスを交えながら対応させていただきました。今後も生産者の皆様のさまざまな悩みや思いに応えるべく、充実した協議会活動に努めていきます。



初めて出展した「農業相談コーナー」

あとながき

青色申告決算書(農業所得用)で納税手続きをするようになって来年で19年目を迎える。観光さくらんぼ団地を造成した際に、補助金はあったものの多額の自己負担が発生したことがそのきっかけである。収入、支出、その他項目を定められた方法で加算減算して納税額を算定するのだが、正真正銘赤字になったためしがない(笑)。自分自身どうにも農業に向いてなさそうな気がしてならない。赤字の理由は明快で、収入よりも経費・諸掛りが多いだけの話だ。

さて、どのような処方箋が考えられるか。手っ取り早いのは離農を選択することであろう。ここでいささか逡巡する。先祖伝来、苦勞して農地を集め営々と農業を続けてきたわけである。そう簡単に離農などできるわけがないではないか、と自責の念にかられる。こんなことを年中行事のようにブツブツと呪文のように唱える年の瀬である。(國井)

◆りんご就農者を訪ねて(シリーズ8)

渡邊 良太さん

上市市出身(37歳) 就農4年目

10月2日午後、古楨地区にある渡邊良太(わたなべ りょうた)さんのりんご園をお訪ねしました。気候変動への対策が課題と話をされる渡邊さん、一つひとつ丁寧にインタビューにお答えいただきました。

Q 「朝日町でりんご栽培をするようになったきっかけは」

渡邊 「上市市から朝日町に転居して、寒河江市にあるアンズリーファームさんの指導を受けて農業に取り組みました。アンズリーさんで5年間農業の手伝いをしました。その頃から朝日町でりんごをつくりたいと考えていました」

Q 「りんごづくりをしてよかったことは」

渡邊 「消費者から美味しいと言ってもらえることです」

Q 「りんごづくりに慣れましたか」

渡邊 「徐々に慣れてはきましたが、試行錯誤して頑張っている最中です。栽培面積は70aでりんごが主です。他に桃20aを加工用として契約栽培しています」

Q 「朝日町でのりんごづくりの課題は」

渡邊 「気候変動にどのように対応していくのが課題と捉えています。外気温もかなり高くなってきていて、ふしも日焼けするようになりました。猪も増えており、枝を折って果実を食べるなど、結構食害があります。地域では高齢化が進んでいますが、なんとかこのりんご園をしっかりと引き継いでいきたいですね」

Q 「今後の夢などやってみたいことや計画は」

渡邊 「栽培面積を増やして、この地区のりんごをもっと盛り上げていきたいです。古楨果樹組合は現在12名の組合員がいます。農家がたくさんいた以前のような産地銘柄の復活を願っています。私としては様々な作物に挑戦したいとの思いもありますが、やはりりんごを主力にしたいと考えています。ももの生食も取り組んでいきたいです。私は元々の普通ふじの味が美味しいと思います。ぜひ残していきたいですね」

Q 「農作業用のお気に入りの道具はありますか」

渡邊 「古い機械ですが祖父が使っていた乗用草刈機です。元々この畑は祖父のもので、小さいころから手伝いに来ていました。草刈機に乗っている祖父の姿が、幼い頃の思い出として心に残っています」



りんご園での渡邊さん

Q 「安全な農作業への心構えについて」

渡邊 「脚立作業の安全確認です」

Q 「休日の過ごし方は」

渡邊 「仙台市へショッピングに行っています」

Q 「消費者の皆さんへメッセージを」

渡邊 「おいしいと言ってもらえるように毎年がんばっていきます」

Q 「朝日町での新規就農をお考えの皆さんへメッセージを」

渡邊 「自然とともに仕事ができることは気持ちがいいものですが、自然が相手だからこそ、うまくいかないこともあります。そうやって自然とうまく付き合っていく楽しさを味わってもらえたらいいのではないかと思います。楽しく頑張ってください。教えあったりしながらりんごづくりができる環境が朝日町にはあります」

◆取材を終えて

最後に自然の楽しさと厳しさを教えてくれた渡邊さん。産地銘柄の復活のため積極的に行動してください。安全作業の勘所も教えていただきました。がんばってください。



次世代につなぐ  
あさひりんごの郷

## ◆ 令和5年7月5日、6日の弘前市研修会の視察報告(後編)

新規就農希望者(研修生)の独立就農を支援する2つの法人を視察しました。  
百姓堂本舗は車座になり意見交換を、弘果総合研究開発は樹園地を主として視察しています。

### 1. 株式会社百姓堂本舗

㈱百姓堂本舗は会社で4.5ヘクタール、代表個人で1.5ヘクタールのりんご畑を所有し、りんごを次の世代に受け継ぎたいと考え、新規就農希望者を受け入れ研修をしている。また、雹被害からシールド工場を立ち上げたことや、グランピング、さらには若手りんご農家の育成など活躍は多岐にわたっている。

#### (株)百姓堂本舗の取り組みと意見交換の内容

- 30歳で就農したが、農業後継者が少ないことに驚いた。百姓堂本舗を立ち上げシールド等を製造販売しており、一方で研修生を受け入れている
- 今まで研修を終了し完全独立した人が1人、研修中が3人、百姓堂本舗でアルバイトをしながら自分の畑を持っているのが2人
- 研修生を育成するにあたっては、指導者というよりむしろ兄貴分として面倒をみた方が双方にとって利点が多いのではないか
- 例えば、りんごの木箱1箱の取扱いに対して10円の協力金をりんご関連事業者や農協から捻出していただければ、新規就農者への年間150万円の支援に、さらに上乗せ150万円の支援が可能となるのではないかと。そうした仕掛けを行政でつくっていただけないのか。150万円だけでは足りない
- 一定の研修後に独立して就農するのも大変である。やる気と工夫、そして優れたりんごを生産し販売して、弘前市のりんご農家として羽ばたいていけるよう新規就農者の育成に努力を重ねていきたい
- ハローワークで社員を募集していて、通年雇用(週休2日)で募集したところ15倍の倍率となった
- 社員の冬仕事は剪定作業の他、年度末に需要のある自動車学校の送迎などを行っている
- 弘前市では、りんごの販売高が概ね1,000億円と想定している。さらに関連産業がその3倍の3,000億円と試算すれば、莫大な金額となる。りんご産業の衰退はまさに市の命運を左右するといっても過言ではない
- りんごの価格は上がってきているので、今なら新規就農も勧められる



正面右から弘前市伊藤課長補佐、同市澁谷課長、㈱百姓堂本舗高橋社長

## 2. 弘果総合研究開発株式会社

弘果総合研究開発(株)は、遊休農地の解消や転作を行う「農事組合法人しみず」と連携し、新規就農者向けの「りんご高密度植栽圃地」を整備し、担い手不足解消に取り組んでいる。

#### 取り組みの概要

- 高密度植栽は従来より早期に収穫量を確保できること、樹木が規則正しく並ぶため、剪定や収穫作業の負担が少ないことから、新規就農者向けに導入
- 年間2名の新規就農希望者(研修生)を募集し、高密度植栽の圃地を一人当たり50アールずつ貸し出す予定(令和6年度より事業開始予定)
- 研修生には、生活していくうえで様々な情報を得るためにも、地元のコミュニティに入ってもらうことが重要と伝えている

#### 弘果総合研究開発(株)の高密度植栽

- ・ 一列50m、樹間は約80cmで植栽し、灌水装置を備えている
- ・ 収穫量は5年後に1本あたり20kg、50アールで約30t、500万円の売り上げを想定
- ・ 平らな土地については南北に植栽すると日焼けも少ない
- ・ 排水や草対策として、土を寄せ、その上に堆肥を盛っている(約50cm)
- ・ 支柱が倒れないよう、芯柱には地中部分に羽が4枚付いているものを使用。列の間にも太い柱を入れている
- ・ 雪の重みを逃がすため、3年間の下垂誘引(以下の写真)を行っているが、誘引作業は難しい



弘果が所有する「りんご高密度植栽圃地」



針金による下垂誘引

#### Q高密度植栽とは・・・

欧州発祥の技術で10アール当たり300本以上の苗木を植栽する。トレリスという支柱に沿わせ、0.8~1m間隔で1列に並べる。作業の動線が良く、色付き管理や剪定作業の労力が軽減される。一方で、苗や設備への初期投資金額が高いことや日焼け・強風などの気象状況の影響を受けやすいことが課題となっている。

#### 視察の感想

百姓堂本舗も弘果総研も同様に、弘前市のりんご産業が衰退することに強く危機感をかかえているとの印象を受けた。また両者からは、自から新規就農希望者に対して研修・支援し、将来一緒に産地を維持していく仲間をつくらしていきたいという思いが伝わってきた。